

「大学生のためのお金の教室～複利の効果を楽しむ？」

ファイナンシャルプランナー 江尻正幸

こんにちは、ファイナンシャルプランナーの江尻正幸です。

皆さんは、「複利」という言葉をご存じでしょうか？

資産運用に関心がある方ならば、どこかで接したことがあるかもしれませんね。

今回は、この点について学びましょう。

【質問】

資産運用をする際、「複利」が重要だと聞きました。

しかし、私はこの言葉を初めて耳にしました。

どのような意味・効果があるのでしょうか？

(仲田さん・大学4年生・預貯金以外の資産運用未経験者)

【回答】

まず、「複利」という言葉の意味を確認しましょう。

複利とは、元本から生まれた利息や利益（以下、利息）を再投資（元本に充当する）する運用手法です。こうすることで、元本を大きくし、その分受け取る利息も増やすことができます。

反対に、利息を再投資せず、元々の元本のみで運用する手法を「単利」と言います。

言葉だけでは理解が進まないなので、具体的な数字を交えてその効果を考えてみましょう。

■事例

仲田さんがアルバイトで貯めた、当面使う予定の無い50万円を年利率2%で運用した場合について、単利と複利でそれぞれ計算します。

【単利】元本から生じる利息10,000円（＝500,000円×2%）を10年間受け取ることで、最終的に600,000円まで殖やすことになる。

【複利】元本から生じる利息を全額再投資（例えば、2年目において、1年目の利息10,000円を加えた510,000円をみなし元本とする）することで、10年後には609,497円^{注1}まで殖やすことができる。

－コラムの無断転写・転載などを禁じます。－

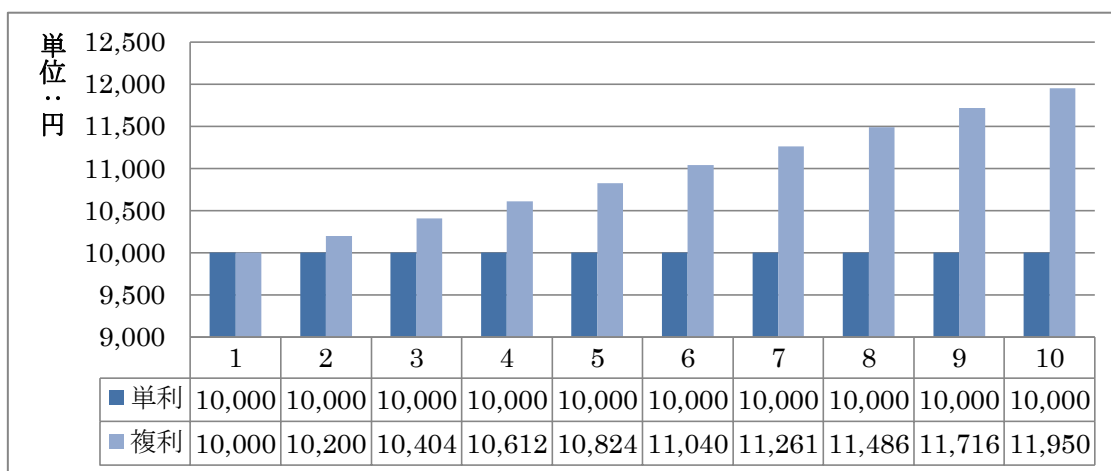
Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

このように、複利で運用することでパフォーマンスをより向上させることが可能となります。

もちろん、元本や運用利率によって差額は増減します。

余裕資金によって運用をする場合、グラフ（1）を見てもわかるように長期的に運用すればするほど複利効果を楽しむことができる確率が高くなります。

グラフ（1） 500,000 円を年利率 2%で運用した場合の比較



（税金・各種手数料は考慮せず筆者が計算・作成^{注2}。円未満は切捨てして記載。）

■ 「複利かどうか」のみに注意すればよいか

ここまでの説明を聞いて、「資産運用において、複利の効果を楽しむことさえ意識すればよい！」と仲田さんは考えたかもしれません。

しかし、その考え方は危険です。

まず、殆どの資産運用商品・手法は元本が保証されていません。

また、「ペイオフ対象である預貯金で複利効果を生かせばよいのでは・・・？」と思うかもしれませんが、2012年6月18日時点における定期預金（1年物・預入金額300万円未満）平均年利率は0.026%であり、あまり多くは期待できません。

他にも、資産運用には各種リスク（流動性など）が存在し、グラフ（1）のように常時利益を上げることはなかなか難しいことを忘れないでおきましょう。

大学生である仲田さんには、まだ多くの時間が残されています。

焦らず資産運用について学び、「自分自身が、その仕組みやリスクについて確実に理解しているもの」に投資できることを目指しましょう。

※本コラムは投資を推奨するものではありません。投資は自己責任で行ってください。

注1、 注2：

合計金額に差異が生じますが、これはグラフ（1）において円未満を切り捨てして記載しているためです。この場合における10年後の利息（複利）は109,497.2097円 \approx 109,497円となります。

参照URL

日本銀行「預金種類別店頭表示金利の平均年利率等について（2012年6月20日掲載分）」
<http://www.boj.or.jp/statistics/dl/depo/tento/te120620.pdf>